■創刊　ちょっといい話　4話

最後のプレゼント

この仕事をしていると、お客様の入院というのは珍しいことではありません。
その日もお客様の入院によるキャンセルが入りました。

「母が調子が悪くなって、急遽入院することになりました。お弁当の注文を止めていただきたいのですが」

もう2年ほど当店のお弁当を利用してくれていて、私の“今日の一言”が、毎日の楽しみの一つだと、いつも言ってくれていたKさんの娘さんからの、突然の電話でした。

そんな長いお付き合いをしていたKさんが入院するのであれば、なにか入院中に使えるものをプレゼントして、少しでも元気付けたいという気持ちになり、考え抜いた末に、手作りの巾着袋の中に湯飲みとお箸をプレゼントしました。

Kさんが好きな“赤”の湯飲みとお箸です。

プレゼントを渡した数日後に娘さんに電話をいただき、
「湯飲みとお箸、とても喜んで使っています」
と喜んでくださっている事を伺い、私もうれしくなりました。
「時間があればお見舞いに行きたいな」
とも考えていました。

お見舞いに行くこともできずに一ヶ月ほど経ったころ、一本の電話が鳴りました。
Kさんの娘さんからです。

「退院の連絡かな？」

電話をとって話を聞くと、今朝方Iさんが亡くなったという訃報の報告でした。

前夜までは安定していたそうですが、体調が急変してしまったらしく突然の他界となったそうです。

“前日までいただいた湯飲みとお箸を使って、ご飯を食べてお茶を飲んでいた”
“大変気に入って使っていました”
など使ってくれていた様子をわざわざ教えてくれるために、電話をかけてくれました。

身内でもない私のところに、わざわざお電話をしていただき、私は最後にご挨拶だけでもしておきたいという思いになり、Kさんが亡くなって1週間後に娘さんにご連絡をして、ご自宅までお伺いし、お線香をあげさせてもらいました。

そこにはお花や果物やお菓子と一緒に、少し使った面影のある赤い湯飲みとお箸が置かれていました。

「最期まで使っていたものだから」と娘さんは笑顔で話してくれました。